

管理職が求める教育実践力を中心とした 教員の資質能力について

～高等学校、特別支援学校の管理職に対するアンケートから～

友 枝 文 也

1. はじめに

わが国における今日の社会状況は、科学技術や情報網の発展に伴い、グローバル化、情報化が進展するとともに少子高齢化、高学歴化等の影響により社会構造が大きく変動し、その変化のスピードも増している。また、これからの社会は、政治・経済・文化など、あらゆる分野において高いレベルでの知識や技能が求められる、いわゆる「知識基盤社会」が到来していると言われており、一人一人の人材の質が問われる社会へと変化している。そのような質の高い人材を育成するためには当然ながら質の高い教育が求められ、特に学校教育における果たすべき役割は極めて大きいものとなっている。

したがって、学校教育においては、一人一人の子どもたちがさまざまな課題を主体的に捉え、自ら考え、学び、適切に判断し、行動し、結果に責任を持つことができる自立した個人として、心豊かに、たくましく生き抜くための基礎を培う教育が重要であり、その教育活動の担い手である教員の資質能力が問われることになる。

平成9年の教育職員養成審議会の第一次答申においては、教師の資質能力について、いつの時代にも求められる資質能力と、変化の激しい時代にあつて、子どもたちに「生きる力」を育む観点から、今後特に求められる資質能力等について示された。また、平成17年10月の本審議会の答申「新しい時代

の義務教育を創造する」においては、優れた教師の条件として、「教職に対する強い情熱」、「教育の専門家としての確かな力量」、「総合的な人間力」が示され、これからの社会の進展や、国民の学校教育に対する期待等から、これらの資質能力を身につけるために、教職として常に研究と修養に努め、専門性の向上を図ることが求められている。

このような状況を踏まえ、この論文では、平成26年9月から県立高等学校94校、県立特別支援学校20校に対し、教員として教育活動上必要な資質能力である実践的な指導力を身に付けているのか、資質能力を高めるためにどのような研修が必要かなど、アンケートによる調査を依頼し、平成27年1月までに県立高等学校87校、県立特別支援学校18校から回答を得た。これらアンケート結果の分析、考察を通じて、教育活動上における教員の実践的指導力の状況、資質能力を高めるための方策等を、明らかにしたい。

2. 研究の概要

(1) 研究の趣旨及び方法

学校現場において教員として求められる資質能力については、教師としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、子どもへの教育的愛情、専門的知識、広く豊かな教養を基盤とした実践的指導力であり、その中心は教科指導、生徒指導、進路指導である。これらは保護者や地域が教員に求める資質能力についても同様である。つまり、学校現場における教育活動においては、教員一人一人の具体的な教科指導力、生徒指導力、進路指導力等の能力が問われていることになる。ここでは、管理職が教員に対して教育活動上求めている資質能力について、教科指導、生徒指導、進路指導に関する指導力を中心としたアンケートの回答結果について分析とともに考察を行い、実践的指導力の状況及び指導力を高めるための方策等を明らかにすることを論文のテーマとした。

そしてこのテーマをとおして、今日の高等学校、特別支援学校における教

員の資質能力である実践的指導力の状況及び資質能力を高めるための手立てについてまとめることで、本県県立高等学校、県立特別支援学校における教員の資質能力向上に資するものとした。

(2) 研究の内容

アンケート実施については、各学校の校長に直接依頼し、管理職（校長または教頭）を対象に、「学校経営上に関するアンケート」として、「学校概要」4項目、「学校運営について」10項目、「教職員の資質能力について」10項目の質問を行った。そのうち「教職員の資質能力について」学校種別、学科別に集計し、項目ごとに割合を示し、それぞれを比較できるよう表にまとめた。また、項目それぞれについて分析を行うとともに筆者がこれまで教員生活で学んだことや体験したことを活かし考察を行った。さらに、教員の資質能力を高めるためには何が必要であるかについて、管理職としての考えをまとめた。

アンケート結果については、福岡県立の普通科系高等学校及び実業系高等学校、特別支援学校に分類し、それぞれを比較することとした。普通科系高等学校としては、普通科及び普通科に英語科または理数科を設置している学校とし、実業系高等学校は、工業、商業、農業などの職業に関する専門学科を有する専門高校及び普通科に職業学科を加えた高等学校、総合学科を有する高等学校とした。また、特別支援学校では幼稚部・小学部・中学部・高等部・専攻科を有するすべての学校を対象とした。

3. 管理職に対する教員の資質能力に関するアンケートの結果及び分析、考察について

〈問1〉 教員の教科指導力に満足していますか

学科(数) 回答項目	普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (18)		全 体 (105)	
	①十分に満足	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	2
②概ね満足	14	25.9%	5	15.1%	8	44.4%	27	25.7%
③やや不満	38	69.1%	25	78.1%	8	44.4%	71	67.6%
④かなり不満	1	1.9%	2	6.1%	2	11.1%	5	4.8%

〈問2〉 教員の生徒指導力に満足していますか

学科(数) 回答項目	普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (18)		全 体 (105)	
	①十分に満足	2	3.7%	0	0.0%	2	11.1%	4
②概ね満足	24	43.6%	10	31.3%	7	38.9%	41	39.0%
③やや不満	28	51.9%	21	63.6%	8	44.4%	57	54.3%
④かなり不満	1	1.9%	1	3.0%	1	5.6%	3	2.9%

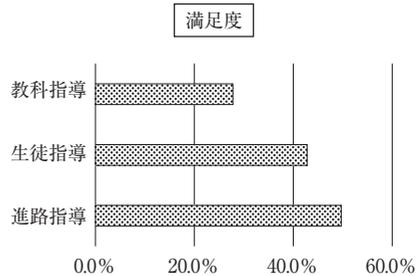
〈問3〉 教員の進路指導力に満足していますか

学科(数) 回答項目	普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (18)		全 体 (105)	
	①十分に満足	1	1.9%	2	6.1%	2	11.1%	5
②概ね満足	26	48.1%	10	30.0%	11	61.1%	47	44.8%
③やや不満	28	50.9%	19	59.4%	5	27.8%	52	49.5%
④かなり不満	0	0.0%	1	3.0%	0	0.0%	1	0.9%

1) 教科指導力、生徒指導力、進路指導力に満足しているかについて

〈分析〉

教科指導力、生徒指導力、進路指導力の満足度を全体で比較すると、進路指導力が「十分に満足」及び「概ね満足」の割合がもっとも高く、特に特別支援学校では約72%が「十分に満足」または「概ね満足」と回答している。



一方、満足度がもっとも低かったのは教科指導力であった。

特に実業系高等学校では、教科指導力に「十分満足」または「概ね満足」と回答した割合は約15%で、普通科系及び特別支援学校と比較して満足度の割合が低いこと。

また、生徒指導及び進路指導を含むすべての指導力において、「やや不満」「不満」の割合が高くなっているのが特徴である。

〈考察〉

管理職が教育活動上において教員の指導力を把握する場合、日頃の授業や研究授業等を通じて教科指導力の評価を行い、特別活動における儀式や体育祭や文化祭、遠足、集会等での生徒に対する指導状況などを通じて生徒指導力を評価しているケースが多いと思われる。一方、進路指導力は学年や担当クラスの進路実績等によって評価されているケースが多く、年間単位での差異があまり見られないために、他の指導力と比較して「不満度」が高くないものと思われる。一方、日頃から管理職が観察する機会が多い教科指導では、要求の頻度も増えることで評価が厳しくなることは致し方ないのではと思われる。

また、実業系高等学校では、教科指導力に対する「満足度」の低さとともに、他の指導力についても「不満」の割合が高くなっていることから、管理職からすると教員の実践的指導における総合力に物足りなさを感じているのではないと推察している。

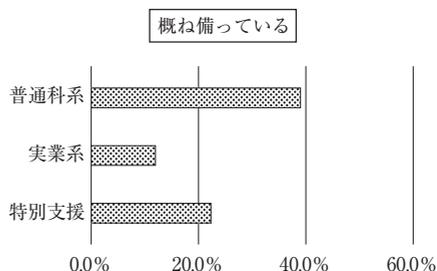
〈問4〉 教員の資質能力は全体として備わっていると思いますか

学科(数) 回答項目	普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (18)		全 体 (105)	
①概ね備わっている	21	38.9%	4	12.1%	4	22.2%	29	27.6%
②一部教員は不足	33	60.0%	26	81.3%	13	72.2%	72	68.6%
③全体的に不足	1	1.9%	2	6.1%	1	5.6%	4	3.8%

2) 教員の資質能力が全体として備わっているかについて

〈分析〉

教員としての資質能力が「概ね備わっている」と回答した割合が比較的高いのは普通科系高等学校の管理職である。



前述の指導力の満足度と比較すると、特別支援学校では教科、生徒、進路のそれぞれの指導力

において、普通科系及び実業系高等学校と比較すると満足度の割合が高くなっているが、資質能力が全体として備わっているかについては、「一部教員は不足」または「全体的に不足」していると回答した割合が高くなっているのが特徴である。また、実業系高等学校では、教科、生徒、進路のそれぞれの指導力とともに全体的な資質能力についても「一部教員は不足」または「全体的に不足」していると回答した割合が高くなっている。

〈考察〉

教員の実践的指導力である教科指導力、生徒指導力、進路指導力は、教育者としての使命感、児童生徒への教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養などを基盤とした資質能力のことを指す。ただ、教員に求められる資質能力は、地球、国家、人間等に関する適切な理解や変化の時代を生き抜く力、個性豊かな人間性など、広範囲にわたり一口で教員の資質能力を表現することは困難である。したがって、質問そのものが

「資質能力」としているため、漠然としており不適切だったと反省しているが、回答からは、例えば、高度な知識や教養を身に付けるなど資質能力を十分に備えているにもかかわらず日々の努力を怠り、物事を真摯に取り組まないことによって、実践的指導力が十分に備わっていない教員の存在または資質能力としては十分とは思えないが、努力によって実践的指導力を身につけているケースなど、「実践的指導力の満足度」に対する回答と「資質能力が備わっているか」に対する評価を関連付けながら、資質能力が備わっているかどうかを判断していただいたのではないかと考えている。

〈問5〉 教員の資質能力を高めるためにどの校内研修にもっとも力を入れていますか

※無回答1

回答項目	学科(数)		普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (17)		全 体 (104)	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
①教科指導研修	41	74.5%	23	71.9%	15	88.2%	79	76.0%		
②生徒指導研修	8	14.8%	8	24.2%	0	0.0%	16	15.4%		
③進路指導研修	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%		
④人権教育研修	1	1.9%	1	3.0%	0	0.0%	2	1.9%		
⑤その他	3	3.8%	0	0.0%	2	11.8%	5	4.8%		

* その他 → 道徳教育研修など

〈問6〉 教員の資質能力を高める校内研修は一年間に何回程度実施していますか

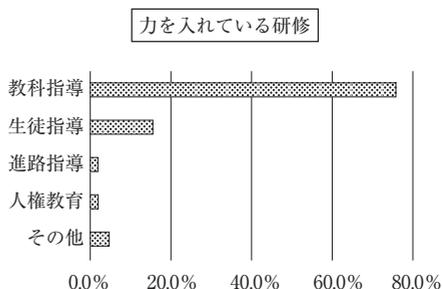
回答項目	学科(数)		普通科系 (53)		実業系 (31)		特別支援 (18)		全 体 (102)	
	数	回数	数	回数	数	回数	数	回数	数	回数
①教科指導関係	120	2.3回	57	1.8回	101	5.6回	278	2.7回		
②生徒指導関係	95	1.8回	63	2.0回	41	2.3回	199	2.0回		
③進路指導関係	84	1.6回	27	0.9回	36	2.0回	147	1.4回		
④人権教育関係	90	1.7回	46	1.5回	37	2.1回	173	1.7回		
⑤その他	38	0.7回	29	0.9回	55	2.6回	122	1.2回		

* その他 → 特別支援関係⑳、保健・安全㉑、服務規律⑰、ICT ⑬、危機管理⑥、講師研修⑤、その他㉒

3) 教員の資質能力向上のためにもっとも力を入れている校内研修について

〈分析〉

教科指導研修が他の研修と比較し圧倒的に割合が高く、特に特別支援学校では回答した17校のうち15校の88%が授業研修にもっとも力を入れていると回答している。普通科系及び実業系高等学校では、教科指導研修に次いで生徒指導に関する研修の割合が高くなっている。



一方で、実業系高等学校では生徒指導に関する研修にもっとも力を入れている学校が24.2%で、普通科系高等学校と比較して10ポイント高いことや特別支援学校では生徒指導に関する研修が0.0%の回答であったことが特徴である。

なお、校内研修の内容及び頻度については、特別支援学校の校内研修の回数が高等学校の概ね2倍である。

〈考察〉

教員一人一人の資質能力を高めるために教育活動上もっとも必要な研修が、教科指導に関する授業研修であることは、これまで示してきたアンケート結果の分析等から明らかである。また、実業系高等学校で生徒指導に関する研修が普通科高等学校と比較し、高い割合を示しているのは、生徒指導上の課題を有する学校が実業系に多く存在するためではないかと推察できる。また、教科指導研修では主に校内の各学年や各教科を中心とした教諭による授業を通じて実施されることに対して、生徒指導研修では教職員全体による問題行動を中心とした専門機関や関係機関による外部の講師を招いて実施されることが多いものと考えられる。

なお、校内研修の回数が特別支援学校では高等学校の概ね2倍であるの

は、児童生徒個々の課題への対応とともに人事異動によって中学校または高等学校から転入してきた教員で、特別支援学校の勤務経験が初めてである場合には、視覚、聴覚、知的障がい等のそれぞれに応じた指導上の研修が必要になるためだと考えている。

〈問7〉 教員にもっとも必要な資質能力は何だとお考えですか

※無回答2

回答項目	学科(数)		普通科系 (54)		実業系 (32)		特別支援 (17)		全 体 (103)	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
①問題解決力	24	44.4%	15	46.9%	5	29.4%	44	42.7%		
②人間関係調整力	17	31.5%	10	31.3%	5	29.4%	32	31.1%		
③コミュニケーション力	8	14.8%	4	12.5%	5	29.4%	17	16.5%		
④自己啓発力	2	3.7%	2	6.3%	2	11.8%	6	5.8%		
⑤情報処理力	1	1.9%	1	3.1%	0	0.0%	2	1.9%		
⑥その他	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%		

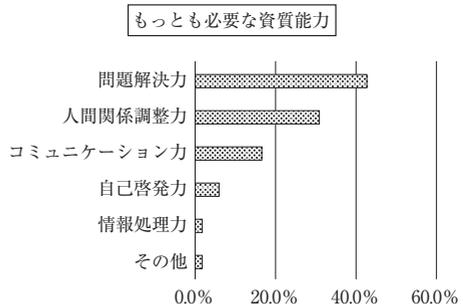
*その他⇒使命感・責任感②、子どもへの愛情①、人間力①

4) 教員にもっとも必要な資質能力は何かについて

〈分析〉

管理職が考えるもっとも必要な資質能力は「問題解決力」が全体の42.7%でもっとも多く、次いで「人間関係調整力」の31.1%、「コミュニケーション力」16.5%となっており、この3項目で概ね90

%を占めている。また、普通科高等学校及び実業系高等学校ともに上位3項目が同様の割合を示していることが特徴である。



〈考察〉

ここでの資質能力の質問項目については、実践的指導力と密接な関係があると思われる内容であり、日ごろの教育活動において生徒や教職員とのやり取りや業務上必要な資質能力について回答を求めたものである。その中で、「問題解決力」が最も高い割合を示しているのは、日常的に発生するさまざまな課題への対応が求められる近年の学校現場の状況から、その解決力こそがもっとも必要な要素だと考えていることではないかと推察され、管理職としての危機管理意識のあらわれでもあると思われる。また、「人間関係調整力」及び「コミュニケーション力」は「問題解決力」の要素であると思われるため、必要な資質能力として高い割合を示しているものと考えられる。

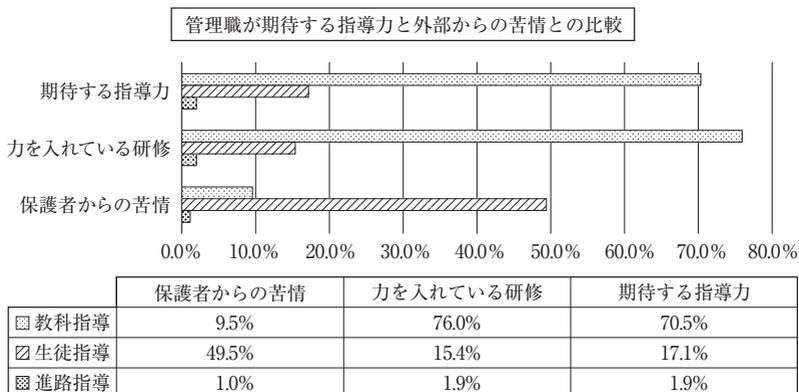
〈問8〉 教員にもっとも期待する指導力は何ですか

回答項目	学科(数)		普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (18)		全 体 (105)	
①教科指導力	39	70.9%	21	65.6%	14	77.8%	74	70.5%		
②生徒指導力	6	10.9%	9	28.1%	3	16.7%	18	17.1%		
③進路指導力	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%		
④学級経営力	4	7.3%	1	3.1%	1	5.6%	6	5.7%		
⑤その他	4	7.3%	1	3.1%	0	0.0%	5	4.8%		

*その他⇒人間教育力③、バランスが取れた指導①、教育への熱意①

〈問9〉 保護者から教員の指導に対するもっとも多い苦情は何ですか

回答項目	学科(数)		普通科系 (55)		実業系 (32)		特別支援 (18)		全 体 (105)	
①教科指導	6	10.9%	1	3.1%	3	16.7%	10	9.5%		
②生徒指導	25	45.5%	21	65.6%	6	33.3%	52	49.5%		
③進路指導	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%	1	1.0%		
④学級経営	3	5.5%	4	12.5%	5	27.8%	12	11.4%		
⑤部活動	5	9.1%	1	3.1%	0	0.0%	6	5.7%		
⑥特にない	12	21.8%	4	12.5%	3	16.7%	19	18.1%		
⑦その他	4	7.3%	1	3.1%	0	0.0%	5	4.8%		



5) 管理職が期待する指導力と外部からの苦情との比較について

〈分析〉

管理職が期待する指導力では、全体の70%以上が教科指導力と回答している。これは〈質問1〉で教科指導の満足度における「やや不満」及び「不満」と回答した割合とほぼ一致している。また、校内研修でもっとも力を入れている教科指導に対して、保護者からの苦情では生徒指導に関する内容がもっとも多く、次いで「特に無い」と18%程度の学校が回答している。ただし、特別支援学校に対する保護者の苦情では、生徒指導に次いで学級経営に対する苦情が多くなっていることが特徴である。なお、グラフに表示しているのは、実践的指導力と比較する意味で教科指導力、生徒指導力、進路指導力のみとした。

〈考察〉

管理職が、教育活動を行う上で教員にもっとも求めている指導力は教科指導力であり、同時に指導力に不満を感じているのも教科指導力である。管理職として教員に指導力を求めるとき、日々の営みである授業をとおして、子ども一人一人が自ら考え、自ら行動できる主体性や心豊かにたくましく生き抜く力を身に付けさせることがもっとも重要であり、これらの要素は生徒指導及び進路指導にも通じることだという考えがベースとなって

いると思われる。教科指導力に対する期待が大きければ大きいほど、要求のレベルも上がり、満足度は低くなるものと考えられる。一方、保護者からの苦情で生徒指導や学級経営が高い割合を示しているのは、生徒指導上の課題を抱えている学校や一部教員の指導力不足との関係があるものと考えられる。ただ、教科指導や学級経営と比較して、生徒指導では保護者の目に見える形となって現れるケースが多いため、苦情の内容が生徒指導に集中することが予想されるものである。また、保護者からの学校に対する苦情に関するアンケート結果では「特に無い」と18%程度の学校が回答したことに、筆者としてはやや驚きを感じている。福岡県の県立学校が多くの保護者から信頼を得ていることを物語っているのではと推察できる。

〈問10〉 校内研修以外で教員の資質能力を高めるために何が必要だと思いますか

- 1 職場の業務を通じて資質能力を高める手立て
 - (1) 現場での業務において上司や先輩からの指導やアドバイスによって必要な知識や技能を身につけられる OJT の推進 (20)
 - (2) 他校訪問や企業訪問 (インターンシップ) によって外部の価値観や考え方を知る (13)
 - (3) 日々の実践を積み重ね経験を積むとともに実績を得る (5)
 - (4) 教員自身が業務を通じて自らを高めようとする向上心、陶冶力 (4)
 - (5) 組織の一員であるという自覚とともに自らの役割を理解する (2)
 - (6) 関係機関や地域、保護者との連携を図り外部情報を収集し協働の取組を推進 (2)
 - (7) 生徒の変化に柔軟に対応できる力を身につける
 - (8) 生徒を多面的に評価する視点を身につける
 - (9) 日頃の授業公開と合評会の実施
 - (10) 他の教職員一人一人の取り組みを認めあう
 - (11) 所属する学校の現状分析と問題意識の有無
 - (12) 人間構築力の育成
 - (13) 緊張感のある職場
- 2 対外的な研修を通じて資質能力を高める手立て
 - (1) 県などの教育センターで開設される専門的講座を受講 (32)
 - (2) 他校や予備校等の優れた授業の参観 (7)
 - (3) 自己啓発を行い自ら研修し学ぼうとする意欲 (3)

- (4) 小・中・高での外部等講師を活用した実務研修の充実(2)
- (5) 大学院や海外などの長期派遣研修への参加(2)
- (6) 命令研修において各自が課題意識を持ち主体性を持って研修に臨む
- (7) 課題を抱える教員への具体的な改善策の管理職に対する研修

3 行政が教員に対する資質能力を高めるために支援できる手立て

- (1) 自己研鑽及び各種研修を受講できる時間的、精神的なゆとり(2)
- (2) 良い人材確保のための給与等の待遇改善(2)
- (3) 校内研修及び校外研修との連動できるシステム
- (4) 主体的に行動できる能力やコミュニケーション能力を高める研修の企画

4 個人として資質能力を高める手立て

- (1) ストレスマネジメント力を身につける
- (2) 外郭団体等の役員経験をjする
- (3) 何事にも好奇心を持って活動する
- (4) 特別支援学校教諭の免許状取得に挑戦する
- (5) 自分の趣味や特技を活かし、オンオフを明確にして人間的な幅を広げる

6) 校内研修以外で教員の資質能力を高めるために何が必要かについて

〈分析〉

この質問に対する回答については、記述された内容を上記のように1～4の項目にまとめ、それぞれについて分析及び考察を試みている。

1「職場の業務を通じて資質能力を高める手立て」の項目では、「OJTの推進」がもっとも多く、次いで「職場や職種が異なる環境で学ぶ」ことが必要だとする回答となっており、この2つで大勢を占めている。2「対外的な研修を通じて資質能力を高める手立て」の項目では、教員として必要な専門的な知識が得られる「研修講座への参加」という回答がもっとも多く、次いで「他校や予備校での授業参観」という回答が多かった。3「行政が教員に対する資質能力を高めるために支援できる手立て」の項目では、時間的なゆとりや待遇面での支援を求めている。4「個人として資質能力を高める手立て」の項目では、日常的な体験をとおして資質能力を高めるとする回答が多かった。

〈考察〉

教員が自らの資質能力を高めるためには、時間的、精神的、費用面などを考慮すると、身近な職場が効率的だと考えることは当然だといえる。一方で、教員としての責任感や使命感に裏打ちされた対外的な研修や専門的な研修そしてインターシップへの参加など、より積極的な回答も得られた。

ただし、対外的な研修については、特別支援学校に勤務する教員は、休日などを活用し十分に資質能力を高めるための研修の時間は確保できると思われるが、高等学校では、特に部活動指導や課外授業を担当する教員においては、対外的な研修の時間の確保は困難な状況も考えられるため、部活動指導による対外的な活動や課外授業における教材研究等を通じて資質能力を高める工夫が必要となる。

4. まとめ

このたび実施したアンケート結果を基に、学校現場で求められている実践的指導力や教員としての資質能力を高めるための研修等について、以下のようにとまとめた。

- (1) 学校現場でもっとも期待され、必要とされている実践的指導力は教科指導である。
- (2) 生徒指導力をもっとも必要とするのは、普通科系高等学校及び特別支援学校と比較し実業系高等学校で求められているケースが多い。
- (3) 学級経営力は特に特別支援学校で求められているケースが見受けられる。
- (4) 教育活動上、もっとも教員に求められる資質能力は、問題解決力である。
- (5) 学校現場で数多く研修を行っているのは、もっとも期待され、必要とされている教科指導に関する研修である。
- (6) 特別支援学校では児童生徒それぞれが抱える障がいに応じたきめ細かな指導を行うために、研修の内容及び回数ともに充実させている。

- (7) 保護者からの苦情は生徒指導に関することがもっとも多くなっているが、一人一人の教員の教科指導力が高まり、授業内容を生徒が理解することによって、生徒指導上の課題の多くは解消に向かうものである。
- (8) 校内研修以外で資質能力を高める手立ては多種多様な方法が示されたが、すべての教員が十分に自己研鑽に励むことができる時間が確保できるよう、教育行政や学校長の配慮が求められる。

5. おわりに

筆者が県立高等学校に33年間勤務した後、現在は日本経済大学で教職課程を担当しており、経験を活かした指導を心がけている。また、教職課程を履修する学生に対しては、教育現場の実情に応じた資料や情報を提供することによって、教員を目指そうとする意識を高めたいと考えている。また、本県の県立学校における管理職の学校経営状況や教員の教育活動状況等の情報を提供することで、学校教育の充実に資することができればとの思いがあった。

そこで、昨年11月に管理職、教諭、生徒を対象とした学校経営、教育活動、学校生活に関するアンケートの依頼を行うこととした。アンケートの内容が多岐に渡るため、この論集には管理職に対して実施した学校経営に関するアンケートの一部である「教員の資質能力」の項目を論文としてまとめた。

アンケートの実施に当たっては、本県県立学校長が快く引き受けていただき、教職員及びクラス担任の方々にも大変ご迷惑をかけたものとお詫びと感謝を申し上げたい。

今後は管理職の残り一部、教諭、生徒に行ったアンケートについても集約を行い、その結果を論文としてまとめたいと考えている。

(参考資料)

管理職に対する学校経営に関するアンケート

学校経営に関するアンケート (管理職)

下記の問について、該当する項目一つ又は(複数回答可)は該当する項目にを
してください。また、「学校概要」及び の欄、「その他」への ()
には、必要な事項をご記入願います。

※回答者 校長 副校長又は総括教頭 教頭

1 学校概要

- (1) 学校の種別及び課程、学科等
全日制 定時制 全・定併設 () 科 特別支援学校
- (2) 教職員の構成(再任用の教諭及び講師含む)
ア 教諭(男 人・女 人) イ 常勤講師 () 人
ウ 非常勤講師 () 人
- (3) 教職員の年齢構成(全日制・特別支援学校のみ)
ア 20歳代 (人) イ 30歳代 (人) ウ 40歳代 (人)
エ 50歳代 (人) オ 再任用 (人)
- (4) 学級数(全日制のみ)
ア 1年生 () 学級 イ 2年生 () 学級
ウ 3年生 () 学級

2 学校運営について

- (1) 学校教育活動において現在もっとも力を注いでいることはなんですか
規律ある授業形成 個に応じたキャリア形成 規律ある生活習慣形成
生徒個々の道徳性形成 自主的・主体的な行動形成
その他 ()
- (2) 広報活動としての中学校訪問は行っていますか(複数回答可)
管理職が1回 管理職が複数 教職員が1回 教職員が複数
行っていない
- (3) 学校経営上の裁量権はありますか。(複数回答可)
教職員の人事権 教育課程編成 休業日数 土曜授業 授業時数
学校予算(一部含む) 学力検査問題(一部含む) その他 ()
- (4) 学校運営を行う上で何か支障がありますか。(複数回答可)
教員間の意思統一 学級減による教育活動の停滞 施設設備の老朽化
家庭や地域とのトラブル その他 () 特にない

- (5) 解決困難な生徒指導上の問題がありますか。
よくある たまにある 過去にある ここ数年ない ない
- (6) いじめや不登校など生徒指導上の課題への全教員の共通理解は得られていますか。
概ね得られている 学年間に違い 学級間に違い 職員間で違い
- (7) 生徒心得の見直しは行っていますか。
毎年見直している 2年見直していない 3年見直していない
4年以上見直していない
- (8) 教職員との面談は年に何回程度行っていますか。
4回程度以上 3回程度 2回程度 1回程度 行っていない
- (9) 学校間連携を行っていますか。(複数回答可)
中学校 大学・短大 専門学校 塾・予備校 その他()
していない
- (10) 学校を運営するに当たってどのような方針(姿勢)で臨まれていますか。

3 教職員の資質・能力について

- (1) 教員の教科指導力に満足していますか。
十分満足している 不満はない やや不満である かなり不満である
- (2) 教員の進路指導力に満足していますか充分
十分満足している 不満はない やや不満である かなり不満である
- (3) 教員の生徒指導力に満足していますか
十分満足している 不満はない やや不満である かなり不満である
- (4) 教職員の資質・能力は十分備わっていると思いますか
全体的に概ね備わっている 一部教職員は不足している
全体的に不足している
- (5) 教職員の資質・能力を向上のための研修でもっとも力を注いでいる内容は何か
教科指導 生徒指導関係 進路指導関係 人権教育関係 その他
- (6) 教員の資質・能力を高める校内研修を年に何回程度行っていますか。
ア 教科指導関係()回 イ 進路指導関係()回
ウ 生徒指導関係()回 エ 人権教育関係()回
オ その他()関係()回・()関係()回
- (7) 教員にもっとも必要な資質・能力は何だとお考えですか。
問題解決能力 人間関係調整能力 コミュニケーション能力
自己啓発能力 情報処理能力 その他()
よくわからない

(8) 教員にもっとも期待する指導力は何ですか。

教科指導力 生徒指導力 進路指導力 学級経営力 その他

(9) 保護者等から教員の指導に対するもっとも多い苦情は何ですか。

教科指導 生徒指導 進路指導 学級経営 部活動指導

その他 特にない

(10) 校内研修以外で教員の資質・能力を高めるために何が必要だと思いますか。

4 管理職としてこれまでに喜びや辛い思いはありましたか。

〈喜びに思ったこと〉

〈辛い思いをしたこと〉

ご協力ありがとうございました。

参考文献

- 1) 「これからの社会と教員に求められる資質能力」文部科学省 登録：平成21年度以前
- 2) 「高等学校学習指導要領」(総則編)文部科学省 平成22年6月
- 3) 「教員の資質能力の向上」～「教員」から「教師」へ～ 公益社団法人日本教育会 2013年3月
- 4) 「中・高校生が求める理想の教師像」～教育実践演習」カリキュラム開発のために～ 著者：小柴孝子、武田明典、村瀬公胤 著書：神田外国大学紀要(2014年3月発行) P495～P497
- 5) 「理想の教師像についての調査研究(2)」～校長のインタビューから～ 著者：山根文男、本多功彦 著書：岡山大学教師教育開発センター紀要(2013年) 第3号別冊 P96